エコアクション２１
環境経営レポート

（活動期間：令和４年７月～令和５年６月）
ー　第9版　ー

令和2年7月豪雨災害から3年・・・

わたしたち社員一同、3年たった今も早期の復旧・復興に向けて、全力を尽くしています。

小川災害関連緊急砂防工事　他合併
令和5年3月　竣工
災害復旧に伴う砂防堰堤構築　写真は熊本県球磨郡球磨村地区

［発　行　日］　　令和5年8月10日

MITSUWA
CONSTRUCTION COMPANY
三和建設株式会社

［本　　社］　熊本県人吉市西間上町810番地1
TEL　0966－24－6151
FAX　0966－35－7055

目　　次

1.会社概要 …… 1

2.環境経営方針 …… 2

3.実施体制組織図

3-1.組織図 …… 3

3-2.各部署の役割と責任 …… 3

4.環境経営目標 …… 4

5.環境経営目標の実績 …… 5～8

6.環境経営計画及び取組みとその評価・次年度の取組み …… 9

7.環境に配慮した施工の主な活動内容 …… 10～11

8.主な取組み内容 …… 12～13

9.環境関連法規への遵守状況及び違反・訴訟等の有無 …… 14

10.代表者による全体の評価と見直し …… 15

1.会社概要

1)名称及び代表者名

三和建設株式会社

代表取締役社長　佐藤　圭

2)所在地

本社　〒868-0071　熊本県人吉市西間上町810番地1

3)環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	代表取締役副社長	尾曲　幸輔
担当者	営業企画部　部長	笠松　酉雄
	総務経理課	平山　小春
	営業企画課	税所　憂衣

連絡先　TEL:0966-24-6151　FAX:0966-35-7055

4)事業内容

特定建設業	許可番号	熊本県知事許可(特-3)第299号
	許可種類	土木工事業 とび・土工工事業 鋼構造物工事業　ほ装工事業 しゅんせつ工事業 水道施設工事業　解体工事業

5)事業規模

資本金	3,500 万円	
従業員数	61 名	(令和05年6月30日現在)
事業延べ床面積	384 ㎡	

6)事業年度

期首　7月1日　～　期末　6月30日

7)事業実績　※記載されている年度は期首年度となります。

実績内容	単位	令和02年 自　R02.07 至　R03.06	令和03年 自　R03.07 至　R04.06	令和04年 自　R04.07 至　R05.06
工事等の件数	件	52	45	42
完成工事高	万円	317,505	317,688	223,304

8)認証登録範囲

三和建設の全組織、対象事業所と対象事業活動(土木工事業、建築工事業、とび・土工・コンクリート工事業、舗装工事業、解体工事業)を認証登録範囲とする。

2.環境経営方針

【基本理念】

三和建設株式会社は、三方良しの理念に基づき、地域の環境保全ひいてはその地道な取り組みが地球環境保全につながることを認識し、日々の活動において、自主的・積極的に環境保全活動に取組みます。

【基本方針】

1）環境負荷の低減を図るために次のことに取組みます。

① 電力・自動車及び重機の燃料使用量の削減を図り、二酸化炭素排出量削減に取組む。

② 事業活動により排出される産業廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）に取組む。

③ 総排水量削減（節水）に取組む。

④ 環境に配慮した商品・資材のグリーン購入に取組む。

⑤ 地域清掃等を行い、環境保全活動へ積極的に取組む。

2）地球環境との調和を大切にし、環境に配慮した施工を積極的に取組みます。

3）環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

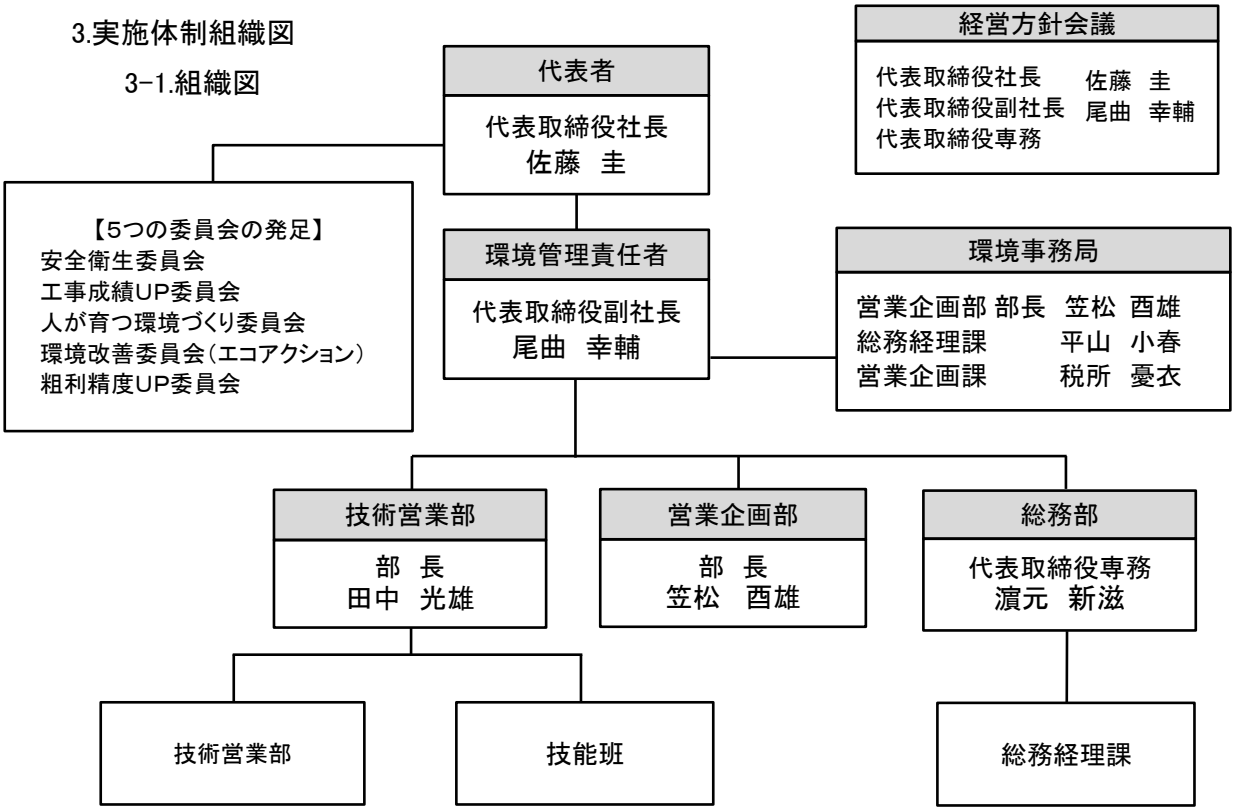
4）PDCAサイクルを繰り返し、環境保全活動及び環境経営システムが継続的に改善することを全組織で取組みます。

5）環境方針は、全社員に周知徹底すると共に、社外へ公開します。

制定日　　平成27年12月1日
改訂日　　令和2年9月10日
三和建設株式会社
代表取締役社長　　佐藤　圭

3.実施体制組織図

3-1.組織図



3-2.各部署の役割と責任

代表者（社長）		・環境管理責任者を指名し、環境方針を定め、表明する。 ・環境経営システムの評価と見直しを行い、改善を指示する。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を準備する。
経営方針会議		・環境経営システムが継続して適切に実行され、妥当であり効果的である ことを確実にするため開催する。
環境管理責任者		・環境経営システムの構築、実施、管理をする。 ・環境目標・環境活動計画書を策定する。 ・環境活動レポートの確認をする。 ・環境経営システムの実績を代表者に報告する。 ・環境への取組みの自己チェックを実施する。
環境事務局		・環境経営レポートを含む、各資料・書類を取り纏め、作成する。
技術営業部		・環境目標と環境活動計画を実施し、達成状況の報告をする。 ・マニフェスト伝票を発行し、データの入力をする。 ・環境方針の理解と取組みの重要性を自覚する。
営業企画部	営業企画課	・環境目標と環境活動計画を実施し、達成状況の報告をする。 ・マニフェスト伝票の集計と管理をする。 ・環境負荷の自己チェックを実施する。 ・環境方針の理解と取組みの重要性を自覚する。
総務部	総務経理課	・環境目標と環境活動計画を実施し、達成状況の報告をする。 ・水道光熱使用量の集計・燃料使用量の集計をする。 ・環境方針の理解と取組みの重要性を自覚する。
委員会活動 （全社員参加型）		・安全衛生、工事成績UP、人が育つ環境づくり、環境改善、粗利UPづくりの 5つの委員会それぞれが議論を重ね、結論を出し、時には横のつながりも 取りながら、PDCAを回し続け、環境経営システムに参加する。

4.環境経営目標

活動期間：令和04年07月～令和05年06月　　※記載されている年度は期首年度となります。

項目			年度／単位	基準年度	目標		
				令和元年度 自 R01.07 至 R02.06	令和03年度 自 R02.07 至 R03.06 ［基準年度の−1%］	令和04年度 自 R03.07 至 R04.06 ［基準年度の−2%］	令和05年度 自 R04.07 至 R05.06 ［基準年度の−2%］
本社	電気使用量	購入電力	KWh	25,137.00	24,885.63	24,634.26	24,634.26
			kg-CO2	8,647.12	8,560.65	8,474.18	8,474.18
	燃料使用量	ガソリン	ℓ	7,707.12	7,630.05	7,552.98	7,552.98
			kg-CO2	17,880.51	17,701.70	17,522.90	17,522.90
		灯油	ℓ	0.00	0	0	0
			kg-CO2	0.00	0.00	0.00	0.00
	プロパンガス使用量		Kg	0.22	0.22	0.22	0.22
			kg-CO2	0.65	0.64	0.64	0.64
	二酸化炭素排出量		kg-CO2	26,528.28	26,262.99	25,997.72	25,997.72
	節水への取組状況		㎥	622.00	615.78	609.56	609.56
	グリーン購入への取組状況 ［アスクル全体の事務用品購入金額+コピー用紙購入金額に対するグリーン商品購入金額+コピー用紙購入金額の割合］		%	60.90%	［基準年度の+1%］ 61.90%	［基準年度の+2%］ 62.90%	［基準年度の+2%］ 62.90%
現場	電気使用量	購入電力	KWh	86,002.00	85,141.98	84,281.96	84,281.96
			kg-CO2	29,584.70	29,288.85	28,993.01	28,993.01
	燃料使用量	ガソリン	ℓ	44,490.24	44,045.34	43,600.44	43,600.44
			kg-CO2	103,217.36	102,185.19	101,153.01	101,153.01
		軽油	ℓ	110,262.53	109,159.90	108,057.28	108,057.28
			kg-CO2	284,477.33	281,632.56	278,787.78	278,787.78
		灯油	ℓ	1,483.77	1468.93	1454.09	1454.09
			kg-CO2	3,694.59	3657.64	3620.70	3620.70
	二酸化炭素排出量		kg-CO2	420,973.98	416,764.24	412,554.50	412,554.50
	環境に配慮した施工		-	−	技術的、経済的に可能な環境配慮型施工		
	産業廃棄物のリサイクル推進		−	−	再資源化 97.5%	再資源化 97.5%	再資源化 97.5%
全体	二酸化炭素排出量　総合計		kg-CO2	447,502.26	443,027.23	438,552.22	438,552.22
	地域貢献活動（7～6月予定） （会計年度単位の活動回数）		回	5	5	5	5

※ 環境活動期間　7月1日～6月30日／年度となります。
※ 基準年度　電力の二酸化炭素排出係数は、
九州電力　令和元年度　　0.344　　を使用しております。
※ 基準年度を令和元年度に変更
※ 前年度実績が0の場合、過去2年分の平均値を目標値とする

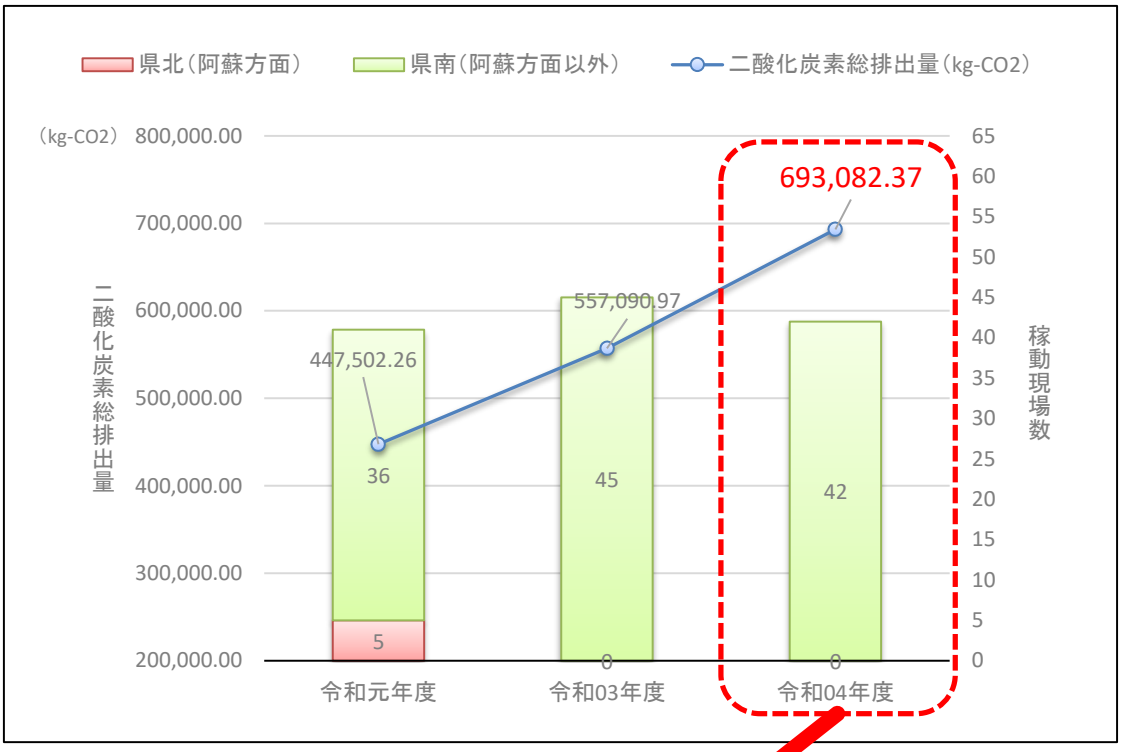
5.環境経営目標の実績

活動期間：令和04年07月～令和05年06月

※記載されている年度は期首年度となります。

項目			年度／単位	実績基準 令和元年度 自 R01.07 至 R02.06	目標 令和04年度 自 R04.07 至 R05.06 ［実績基準の−2%］	実績 令和04年度 自 R04.07 至 R05.06	使用量 目標達成率 （%）
本社	電気使用量	購入電力	KWh	25,137.00	24,634.26	20,925.00	117.7%
			kg-CO2	8,647.12	8,474.18	7,198.20	
	燃料使用量	ガソリン	ℓ	7,707.12	7,552.98	8,667.25	87.1%
			kg-CO2	17,880.51	17,522.90	18,223.18	
		灯油	ℓ	0.00	0.00	0.00	100%以上
			kg-CO2	0.00	0.00	0.00	
	プロパンガス使用量		Kg	0.22	0.22	0.10	218.0%
			kg-CO2	0.65	0.64	0.30	
	二酸化炭素排出量		kg-CO2	26,528.28	25,997.72	25,421.68	102.3%
	節水への取組状況		㎥	622.00	609.56	739.00	82.5%
	グリーン購入への取組状況 ［アスクル全体の事務用品購入金額+コピー用紙購入金額に対するグリーン商品購入金額+コピー用紙購入金額の割合］		%	60.90%	［基準年度の+2%］ 62.90%	69.10%	109.9%
現場	電気使用量	購入電力	KWh	86,002.00	84,281.96	67,417.00	125.0%
			kg-CO2	29,584.70	28,993.01	23,191.45	
	燃料使用量	ガソリン	ℓ	44,490.24	43,600.44	34,149.48	127.7%
			kg-CO2	103,217.36	101,153.01	79,226.80	
		軽油	ℓ	110,262.53	108,057.28	217,345.35	49.7%
			kg-CO2	284,477.33	278,787.78	560,751.00	
		灯油	ℓ	1,483.77	1,454.09	1,046.83	138.9%
			kg-CO2	3,694.59	3,620.70	2,606.61	
	二酸化炭素排出量		kg-CO2	420,973.98	412,554.50	665,775.86	62.0%
	環境に配慮した施工		－	－	環境に配慮した施工を実施 （「7.環境に配慮した施工の主な活動内容」を参照）		
	産業廃棄物のリサイクル推進		－	－	再資源化 97.5%	再資源化 100.0%	102.6%
全体	二酸化炭素排出量　総合計		kg-CO2	447,502.26	438,552.22	691,197.54	63.4%
	地域貢献活動（7～6月予定） （会計年度単位の活動回数）		回	5	5	5	100.0%

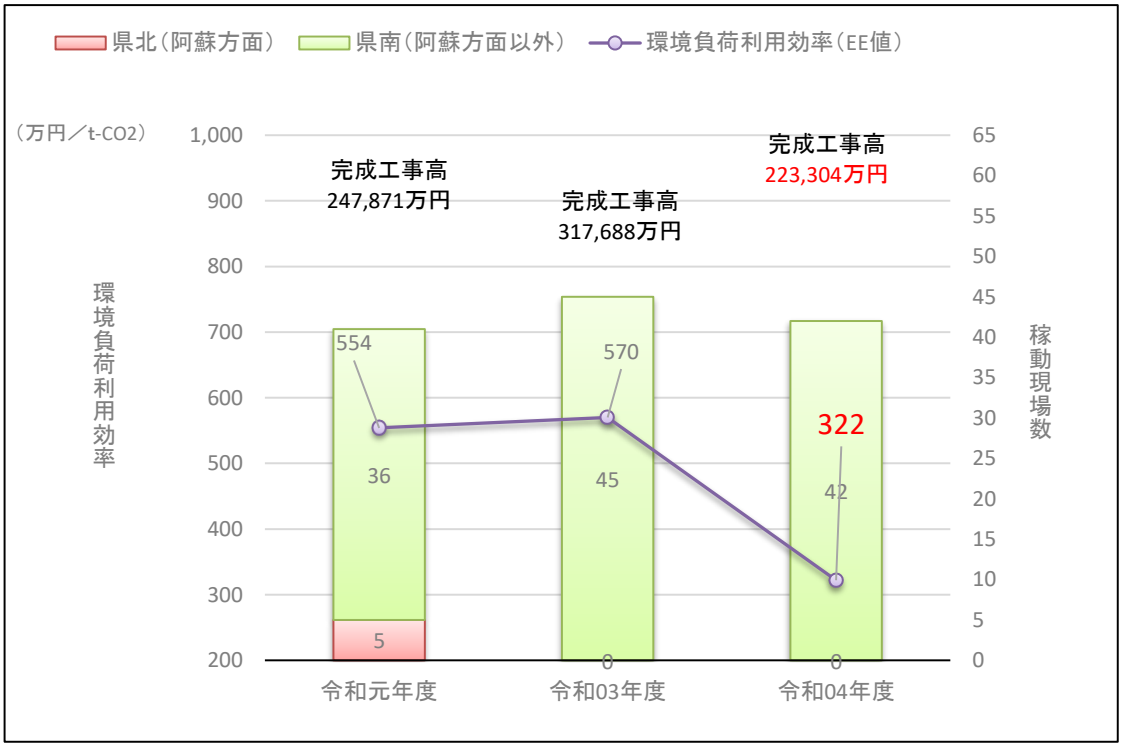
二酸化炭素排出量（稼動現場数との関係）※記載されている年度は期首年度となります。　Graph-①



過去、3年間の中で（Graph-①参照）、本年度は二酸化炭素総排出量が最高値となったが、EE値で比較すると、323万円／t-co2という結果に終わった。（Graph-②参照）

※環境負荷利用効率（EE値）
完成工事高（万円）÷二酸化炭素総排出量（t-CO2）

Graph-②



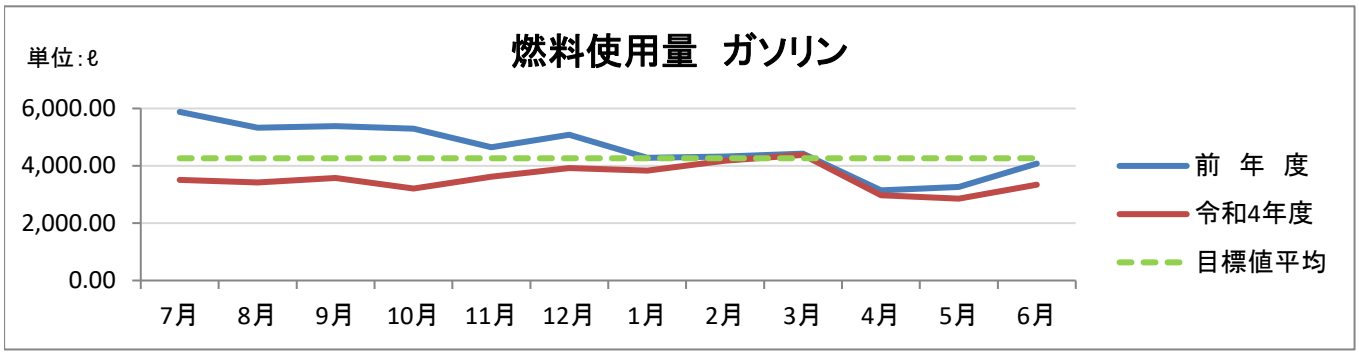
前年度よりEE値が下回った要因は、稼働現場数及び完成工事高の減少とのが考えられる。

エコアクション21　取組み結果の報告（全体）

活動期間：令和04年07月～令和05年06月

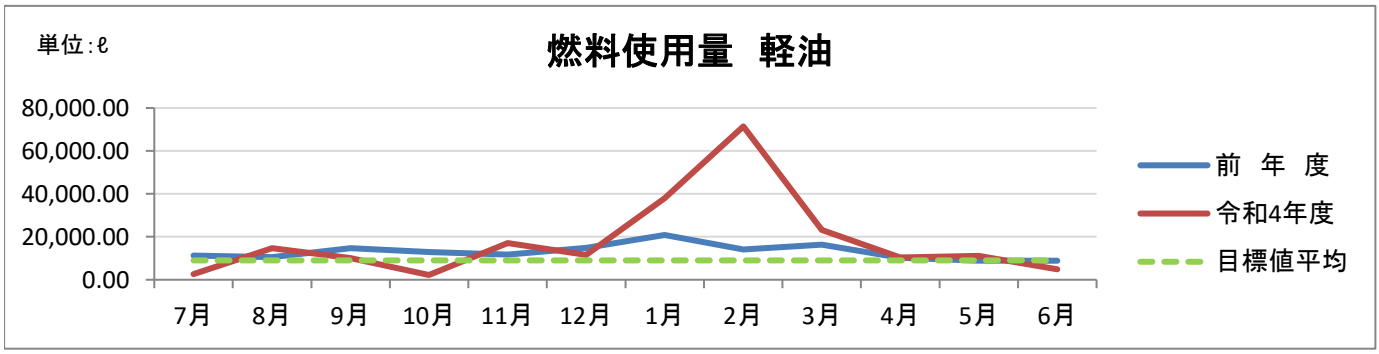
【燃料使用量　ガソリン】　単位：ℓ

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	5,879.63	5,332.39	5,382.77	5,297.23	4,645.27	5,082.33	4,281.90	4,327.74	4,421.40	3,144.29	3,264.41	4,075.06
令和4年度	3,512.63	3,414.63	3,574.09	3,206.72	3,625.28	3,920.34	3,837.16	4,183.77	4,382.35	2,967.72	2,854.52	3,337.52
目標値平均	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79	4,262.79



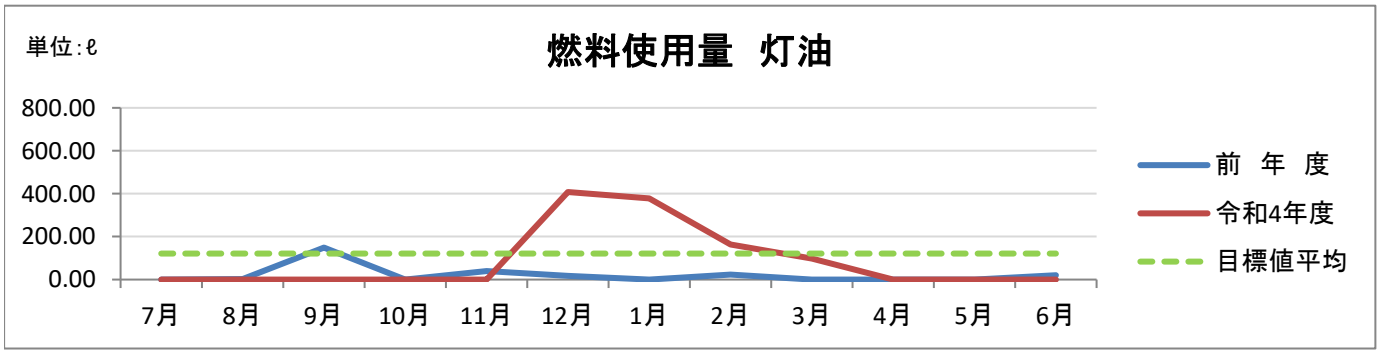
【燃料使用量　軽油】　単位：ℓ

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	11,299.42	10,459.77	14,713.89	12,933.93	11,740.94	14,886.29	20,855.34	14,067.67	16,370.68	10,213.89	8,908.40	8,860.34
令和4年度	2,599.74	14,745.79	10,113.64	2,209.82	17,155.00	11,521.54	38,012.61	71,419.71	23,238.22	10,363.38	11,067.10	4,898.80
目標値平均	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77	9,004.77



【燃料使用量　灯油】　単位：ℓ

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	0.00	3.00	149.00	0.00	40.00	18.00	0.00	23.00	0.00	0.00	0.00	21.00
令和4年度	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	407.83	378.00	163.00	98.00	0.00	0.00	0.00
目標値平均	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17	121.17

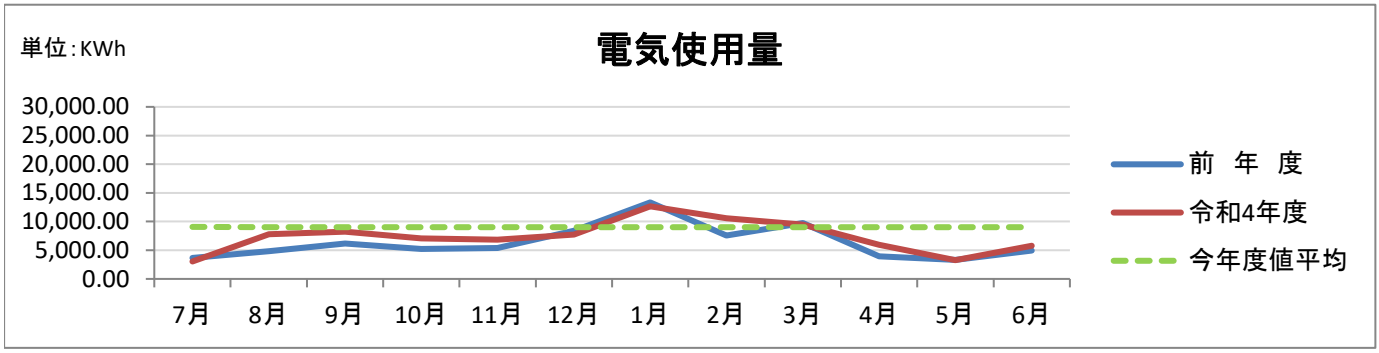


エコアクション21　取組み結果の報告（全体）

活動期間：令和04年07月～令和05年06月

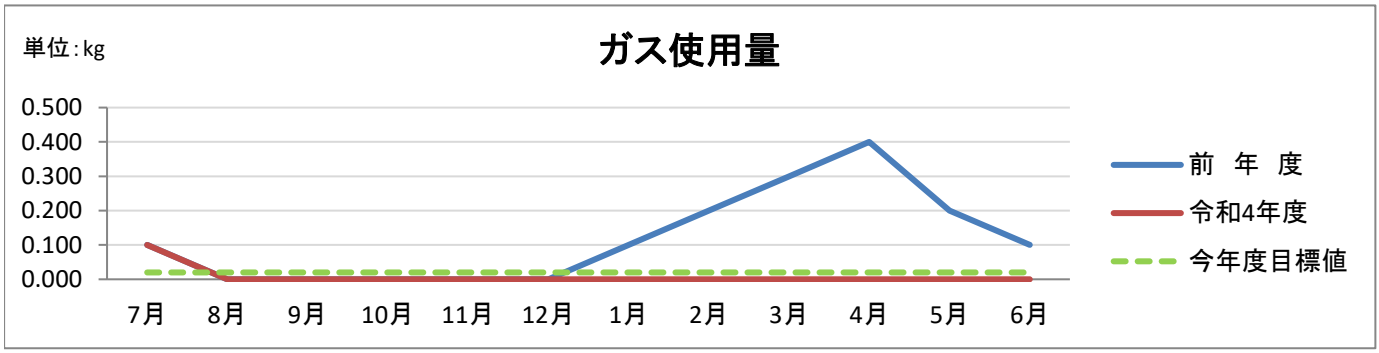
【電気使用量】　単位：kWh

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	3,667.00	4,826.00	6,183.00	5,199.00	5,414.00	8,397.00	13,338.00	7,582.00	9,758.00	3,950.00	3,318.00	4,937.00
令和4年度	3,042.00	7,776.00	8,231.00	7,057.00	6,861.00	7,708.00	12,654.00	10,557.00	9,489.00	5,922.00	3,291.00	5,754.00
今年度値平均	9,076.35	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83	9,017.83



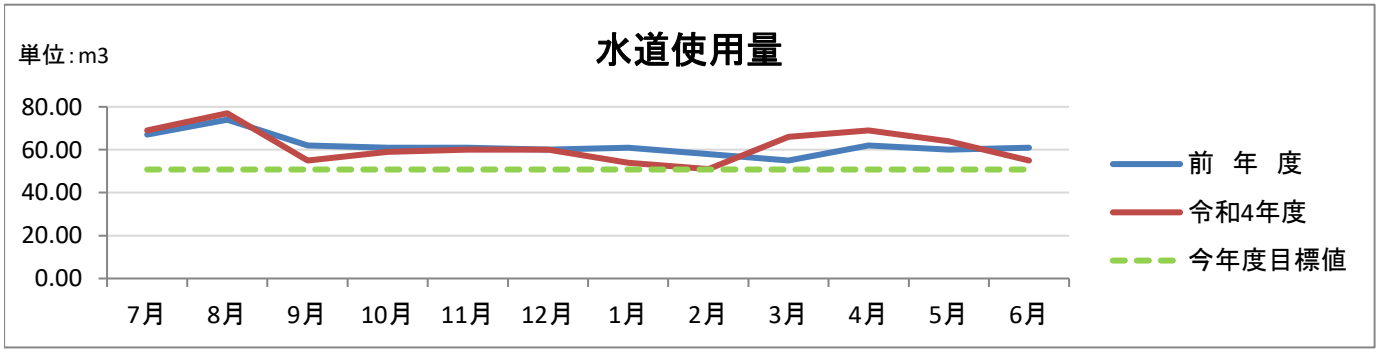
【ガス使用量】　単位：kg

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.100	0.200	0.300	0.400	0.200	0.100
令和4年度	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
今年度目標値	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020



【水道使用量】　単位：m3

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前　年　度	67.00	74.00	62.00	61.00	61.00	60.00	61.00	58.00	55.00	62.00	60.00	61.00
令和4年度	69.00	77.00	55.00	59.00	60.00	60.00	54.00	51.00	66.00	69.00	64.00	55.00
今年度目標値	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80	50.80



6.環境経営計画及び取組みとその評価・次年度の取組み　　評価実施日：令和04年07月30日

具体的な活動		活動期間：令和04年07月～令和05年06月	
		取組判定	評価と次年度の取組み
本社	【省エネ】		エアコンのフィルター清掃は使用シーズン前に随時行っている。年に数回エアコンの消し忘れがあり、まずは注意喚起表示を施し、「消し忘れゼロ」を目指す。
	エアコンのフィルター清掃を年2回実施（5月　11月）	○	
	ブラインドを利用し、熱の出入りを調整	○	
	退社時のエアコンの電源OFF	○	
	【省資源】		車両管理担当者の配置により、整備・点検は滞りなく行われている。月に一度車両内点検を実施しており、不要物の積載は減ってきたが、点検者を増員し、更なる強化を図る。
	急発進・急加速・急ブレーキの禁止	△	
	車両整備の励行（随時）	○	
	不要物の積載はしない	○	
	【節水】		「資機材を洗って倉庫に返却」を社内ルールとしたため、水場の節水表示を強化する。
	節水シール・ポスターによる周知	○	
	水の出しっぱなしをしない	○	
	【グリーン購入】		資機材は、ソーラー式のものを選び、環境に配慮した資機材のリストアップに力を入れ、推進を広げる。
	グリーン商品の推進（環境に配慮した商品の利用）	○	
現場	【省エネ】		熱中症対策のため、夏場のエアコン使用は必須だが、現場事務所設置時、室内温度を1℃でも下がるよう熱がこもらない工夫が必要である。
	不在時と昼休みの消灯	○	
	エアコンの運転管理	○	
	【省資源】		車両管理担当者の配置により、整備・点検は滞りなく行われている。月に一度車両内点検を実施しており、不要物の積載は減ってきたが、点検者を増員し、更なる強化を図る。
	重機・車両のアイドリングストップ	○	
	急発進・急加速・急ブレーキの禁止	○	
	不要物の積載はしない	○	
	車両整備の励行（随時）	○	
	【産業廃棄物】		マニフェスト伝票の記入については、勉強会を実施し、社内パトロール時に確認している。違法行為がないよう取組みは継続していく。
	マニフェスト伝票・産廃契約書の管理	○	
	リサイクル・再生資源化の推進	○	
	【工事における環境配慮】		来期より、初回会議時にこの取組みを一つ以上目標に掲げ、社員一丸となり、協力し合って達成させる。
	環境に配慮した施工	○	
	【地域の環境貢献】		現場毎に計画を立て、協力し、目標達成。今後もこの取組みは全社員知恵を出し合って継続していく。
	年5回以上のボランティア活動の実施	○	

※評価基準：「達成できた」→○　「ほぼ達成できた」→△　「達成できていない」→×

【総評】
今期も、甚大な被害をもたらした「令和2年豪雨災害」の、復興・復旧に尽力した1年であった。
災害が起きると、復旧するために工事車両が動き、二酸化炭素排出量が増えて、「地球温暖化」に大きく影響し、また、災害が起きる…。この繰り返しが「毎年」あるいは「短期間」に発生しないよう、些細なことから一人一人が「環境問題」に真摯に向き合い、「エコアクション21」の活動継続と更なるステップアップを計画し、来期は各項目の目標達成を目指す。

7.環境に配慮した施工の主な活動内容

◆◆◆ 河川の水替え時に環境に配慮した動力電気を使用 ◆◆◆

水替等に使用する電源に発動発電機を使用せず、動力電気(50KVA)を使用することで、河川への油脂類流出防止及びCo2削減・地域住民への騒音防止に繋げました。

仮設電柱(臨時)
ﾒｰﾀｰ・漏電ﾌﾞﾚｰｶｰ

◆◆◆ 環境上の緊急事態の対応に関する資材の設置 ◆◆◆

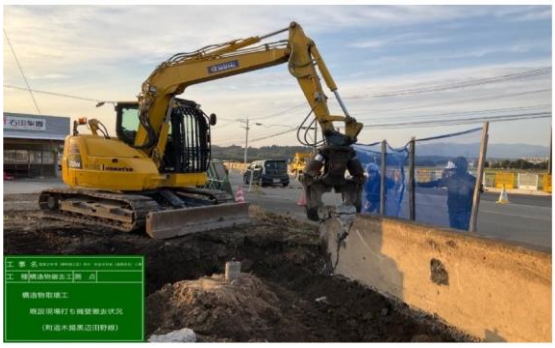
河川の護岸工事であり、建設機械を使用するに当たり緊急時に備えて、現場に「吸ちゃん」(ｵｲﾙ吸着ﾏｯﾄ)を常備しました。機械の日々の始業前点検を確実にすることにより、故障もなく油漏れ等も発生しませんでした。

◆◆◆ NETISに登録された建設機械の活用 ◆◆◆

全現場で使用する大型建設機械は、NETISに登録された機械の使用推進に努め、積極的に使用することより燃費の向上・排出ｶﾞｽ・騒音の低減・安全面の向上が図られ、低燃費性能に於いてはCO2排出量を削減することで、地球環境にも優しく工夫を実施。

◆◆◆　騒音・振動対策における施工機械の工夫　◆◆◆

公共施設隣接及び国道沿いの施工で建設機械による騒音・振動を低減させるため解体用機械（ブレーカー）により連続打撃を排除する目的で、油圧式大割圧破砕機を使用。結果、騒音及び振動も発生せず苦情もなく施工を完了する事ができた。



◆◆◆　施工に伴う仮歩道設置の夜間照明電力低減について　◆◆◆

L型擁壁の施工に於いて、一部歩道部の掘削があり作業終了時の歩道確保について、仮設歩道を設置し夜間照明としてソーラー充電式センサーライトを設置し歩行者の安全を確保しました。

◆◆◆　エネルギー利用の効率化　◆◆◆

本社及び現場事務所に設置しているエアコンについて、温度設定を26℃に設定することにより、消費電力を低減させ環境に配慮した。

8.主な取組み内容

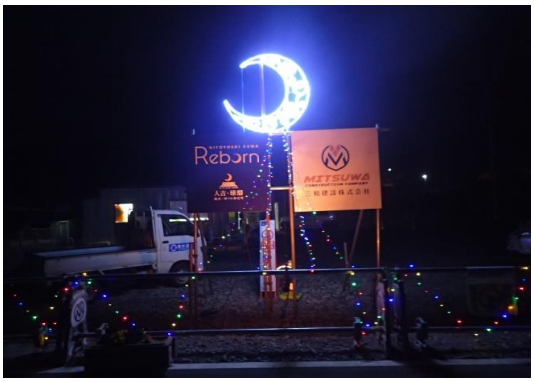
◆◆◆　地域住民の方とのコミュニケーションについて　◆◆◆

毎月1回の進捗状況説明（工事だより配布）

◆◆◆　周辺環境への配慮　◆◆◆

2020年7月の豪雨により復興されている球磨村を明るくするために、ﾌﾗﾜｰﾎﾟｯﾄの設置及びｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝの設置をしました。ﾌﾗﾜｰﾎﾟｯﾄは、219号線の歩道L=150m間に35鉢を設置し、通行される方の癒しになれたかなと思います。ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝは、球磨村からの設置依頼により設置しましたが、通行される人たちの目の保養になれて、少しではありますが尽力させていただきました。（広報くまむらにも掲載されました。）

35鉢のﾌﾗﾜｰﾎﾟｯﾄの設置



人吉球磨の復興のﾘﾎﾞｰﾝ(再生)より月を飾りました

◆◆◆ 「三方良し」の理念に基づいた取組み ◆◆◆

私たちは、地域住民の方に工事の目的を理解いただき、建設業を活性化させる取り組みを推進しています。
今回、白いキャンバス様の施設利用者の方と共同で花苗の植え込み作業（50鉢）を行った分のうち5鉢を贈呈

授産作業お礼にプランター贈呈

三和建設 白いキャンバスへ

三和建設㈱（佐藤圭代表取締役、本社・人吉市西間上町）は授産作業のお礼にと、社会福祉法人・白いキャンバス福祉会（今坂髙志理事長、同市二日町）に利用者が3種の花の苗を植栽した木製プランター5基を贈った。

人吉球磨で災害復旧などの工事を担っている同社が、景観美化やイメージアップの一環として、これまで社員がプランターに花の苗を植え、各地の現場事務所に置いていたが、地域貢献になればと初めて作業を依頼した。

20日に同キャンバスの利用者4人が錦町にある同社の資材置き場で社員と一緒に作業。ダスティーミラーとマリーゴールド、ユリオプステージの3種を一緒に植えたプランターを50個作り、45個は各現場事務所に飾る。

尾田幸輔副社長ら5人が23日に同キャンバスを訪れ、一緒に苗を植えていただきありがとうございます。被災地などの各工事現場の事務所に配布し大切に育てますので、皆さんもかわいく育ててください」とあいさつ。

同社も同キャンバスも初めての取り組みだったというが、利用者は「楽しかった」「きれいに植えられた」と振り返り、早速、たっぷり水を与えていた。

白いキャンバスで行われた贈呈式

◇きょうの青果市況◇

人吉連合		高値	安値
コシネベ	(本)	120	40
ンンギツギトリウモウラランャリ	(kg)	150	50
インマャ	(kg)	130	70
ネマ	(kg)	110	30
ウンソイ	(束)	100	60
パゲチウ	(kg)	200	50
ガボク	(本)	30	10
ュレ	(束)	130	50
ウャ	(kg)	180	50
スンボガ	(kg)	380	150
ダニタキ青トキホジゴオアイカニ	(ﾟ)	90	60
	(束)	150	90
	(kg)	300	-
	(玉)	200	50
	(本)	160	70

9.環境関連法規への遵守状況及び違反・訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

実施日　令和05年07月4日

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管分別・排出 マニフェスト伝票の管理・交付状況報告提出	適正
労働安全衛生法	石綿等の除去作業	適正
再生資源利用省令	再資源利用計画書・実施書の作成 再資源利用促進計画書・実施書の作成	適正
指定副産物利用促進省令	再資源利用計画書・実施書の作成 再資源利用促進計画書・実施書の作成	適正
建設リサイクル法	発注者への計画等説明書と完了報告書 下請負者への告知書	該当なし
建設廃棄物適正処理マニュアル	マニフェストの基づく適正処理の実施	適正
建設副産物適正処理推進要綱	再資源利用計画書・実施書の作成 再資源利用促進計画書・実施書の作成	適正
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	建設汚泥の処理に当っての基本方針 具体的実施手順・建設汚泥の再生利用の促進	該当なし
オフロード法	協力会社の持ち込み建設機械等の適合証明	適正
フロン排出抑制法	定期点検の実施 冷媒用フロンの回収・破壊の措置	適正
建築基準法	石綿含有建材の使用禁止	適正
騒音規制法	対象特定建設作業・特定施設の 届出・規制値の遵守	適正
振動規制法	対象特定建設作業・特定施設の 届出・規制値の遵守	該当なし
河川法	一日に50m3以上の汚水を河川に排水	該当なし
六価クロム溶出試験実施要領	地盤改良における六価クロム溶出試験の実施	適正
消防法	少量危険物保管の貯蔵・取扱の基準	適正
学校環境衛生の基準	学校の工事におけるVOC（揮発性有機化合物） の測定	該当なし
作業所で同意するその他の要求事項	時間外作業の事前連絡・資材搬出入時の粉塵の発生防止とアイドリングストップの実行	適正
建設業の環境自主行動計画 第5版	環境経営の充実に向けた活動の展開 施工段階におけるCO_2の排出抑制 建設廃棄物・建設発生土の対策	適正

※ 適用される法規制等と遵守状況は、「環境関連法規等の遵守状況チェックリスト」に基づき記載しております。

10.代表者による全体の評価と見直し

委員会等を軸にPDCAを回し続けていると認識しています。
・本社新築し、人員も増えたこと
・水害復興工事で現場が拡大したこと
この2点が負荷増大要因なので、注視していきたいです。

評価実施日　　令和5年8月10日

三和建設株式会社

代表取締役社長　　佐藤　圭

環境経営方針の見直し

変更の必要性　　☐ 有　　☑ 無

環境経営目標及び環境経営計画の見直し

変更の必要性　　☐ 有　　☑ 無

実施体制の見直し

変更の必要性　　☐ 有　　☑ 無